

見直しの方向性（たたき台）に対する地域活動団体関係者等の主な意見（概要）について

見直しの方向性(たたき台)の概要	地域活動団体A	地域活動団体B	地域活動団体C	地域活動団体D	地域活動団体E	地域活動団体F	学識経験者A	学識経験者B	学識経験者C
(1)対象となる活動の種類及び対象者 ・いきがい活動:75歳以上を70歳に引下げ	(特になし)	・対象年齢を引き下げるほか、PRなどの工夫をしないと参加者は増えないと思う。	・70歳(場合によってはそれ以上)に引き下げてよいと思う。	・対象年齢の引下げは良いと思う。65歳以上でもよいかもしれない。	・他の活動と同じで60歳以上としてはどうか。	・60代まで引き下げてよいと思う。	(特になし)	・異論はないが、60代のうちから地域とのかかわりを持つように促す必要もある。また、地域共生の観点から、多世代共生型の活動も視野に入れるとよい。	・参加率アップのためには、50歳以上の世代からアプローチする視点が有効ではないか。
(2)1回当たりの付与ポイント数 ・地域貢献活動:5ポイントを2ポイントに引下げ	・地域貢献の活動が高いのは当然であり、他の活動と1ポイント差にするのは適当ではない。	・地域貢献活動のポイントは他の活動よりも高くよい。 ・地域貢献活動の1回当たり5ポイントは高過ぎるように感じる。	・地域貢献活動と他の活動の差は必要である。地域貢献活動の内容に応じて3ポイントに引き下げよう工夫はできないか。	・地域貢献活動と他の活動の差があり過ぎる。 ・例えば地域貢献活動は5ポイントで、他の活動を2ポイントに引き上げてはどうか。	・地域貢献活動は3ポイントが妥当ではないか。	・地域貢献活動は3ポイント位が妥当ではないか。	・地域貢献活動の5ポイントは、他の活動との差が大き過ぎるので、引き下げる妥当性はある。	・異論なし。	・地域貢献活動のポイント引下げには反発も予想される。例えば、3つの活動全て2ポイントにしてはどうか。
(3)1年度当たりの付与ポイント上限 ・600ポイントを200ポイントに引下げ(2割を寄付する長寿応援ファンドは廃止)	・高齢者のいきがいづくり等に必要事業であり、是非、持続可能性を確保して継続してほしい。	・単に金目当てで活動しているわけではなく、より多くの高齢者に参加してもらうためには一定の足切りが必要と思う。 ・一度半分(300ポイント)に下げ、状況によって見直すことも考えてはどうか。	・事業が継続されるのが重要であり、そのための見直しは区が主体的に考えてもらえばよい。	・300ポイント程度は必要ではないか。	・400ポイントくらいから段階的に200ポイントまで引き下げてはどうか。	・400ポイントくらいが適当ではないか。	・これまでの実績に加え、長寿応援ファンドを廃止することで、一定のバランスを維持する工夫がされている。	・異論はないが、上限を超えた付与ポイント数も把握して、活動履歴の可視化を図ってはどうか。	(特になし)
(4)長寿応援ファンド ・長寿応援ファンドは廃止	(特になし)	・実態に応じて廃止することは理解する。	・廃止することよい。	・実態から見て、ファンドは活用されていない。	・廃止でよい。	・廃止でよい。	・実態に応じて廃止することは妥当と思う。	・他の助成制度等との兼ね合いから、廃止は妥当と思う。	・異論なし。 ・なお、(2)に関連して、地域貢献活動は、各基金への寄付なしとし、他の活動は2割分のポイントを各基金へ寄付する仕組みとすることも考えられる。
(5)ポイント交換単位 ・25ポイント単位を10ポイント単位に引下げ	(特になし)	(特になし)	・よりわかりやすく使いやすい10ポイント単位にすることはよい。	・交換しやすくなるので引き下げてよい。	・例えば100ポイント単位にして、活動の活性化を図ってはどうか。	・10ポイント単位でよい。	(特になし)	・異論なし。	・異論なし。
(6)ポイントシールの有効期限 ・付与の翌々年度まで(3年間)を翌年度(2年間)に短縮	(特になし)	(特になし)	・2年でよい。	・2年でよい。	・むしろ現行の3年間より延ばしてほしい。	・1年でもよいのではないか。	(特になし)	・強い反対ではないものの、介護などで一時的に休止した活動を再開する場合もあるので、現行の3年以上としてもよいのではないか。	・異論なし。
(7)健康増進活動等の充実 ・個人で気軽に参加できる事業を充実し、参加率向上に寄与	(特になし)	・参加者を増やすためには、様々な工夫が必要である。	(特になし)	・個人で参加できる事業が増えるとよい。	(特になし)	(特になし)	(特になし)	(特になし)	・個人向けの活動を強化する点はよい。
(8)その他	・この事業は是非継続してほしい。	・商品券を利用できる区内店舗を増やしてほしい。	・スマートフォンアプリ等を活用したデジタル化を図ることは、高齢者の実態から時期尚早と思う。	・金のために活動しているわけではなく、事業の継続が大切と考える。	・参加者を増やすためのPRに努めてほしい。	(特になし)	・素案は全体的によく整理されている。 ・今後、複数団体のポイントシール管理者となっている場合の謝礼のあり方を考える必要があるのではないか。	・参加する高齢者を増やすために、インセンティブを高める方法をとらないことに賛成する。 ・参加者が増えても、事業経費を抑制する考え方は理解するが、人口変動に伴う一定の増はやむを得ないこと。	・当面は紙ベースの対応が必要と考えるが、次世代高齢者への対応としては、将来的に電子化を推進すべきではないか。

(注) 地域活動団体(順不同): 杉並区いきいきクラブ連合会理事、町会連合会常任理事、いきがい活動(スポーツ等)活動団体、いきがい活動(歌・音楽等)活動団体、地域貢献活動(防犯)活動団体、地域貢献活動(環境・美化)活動団体
学識経験者(順不同): 聖学院大学特任教授(古谷野 亘(介護保険運営協議会会長))、成蹊大学文学部現代社会学科教授(渡邊 大輔(長寿応援ポイント事業運営委員))、東京都健康長寿医療センター研究所博士(鈴木 宏幸(長寿応援ポイント事業運営委員))